

平沢復興大臣記者会見録

(令和3年2月25日(木) 18:15~18:25 於)復興庁中央合同庁舎
4号館共用第3特別会議室・杉妻会館牡丹の間)

1. 発言要旨

皆様、お疲れさまです。

今日は、御案内のとおり「福島12市町村の将来像に関する有識者検討会」ということで、3会場に集まっておりました。いろいろと提言案について議論いたしました。

最終的には議長に一任しまして、そして近く、提言として正式にいただくことになっております。

この提言案ですけれども、これにつきましては、今日参加された皆さん方全員がもちろん賛成されたわけで、非常によくできているということで皆さん感謝しておられたんですけれども、ただ、言われたのは、これを絵に描いた餅にしないでほしいと、これを夢物語にしないでほしいと、これを是非実現できるように少しでも努力してほしいと、こういうことをございまして、私からすれば、政府に対する、我々に対する厳しい御指摘、御意見だったなということ、謙虚に受けとめていかなければいけないと思っております。

御意見の中には、この提言を真剣に重く受けとめてほしいという強い御意見もございました。そして、担当者がくるくる変わるけれども、そういったことのないように、しっかり筋を通してやってほしいと、こういう御意見もございました。

いずれにしましても、私は最後の挨拶で申し上げましたけど、今日は叱咤激励を皆さんからいただいたというよりは、激励はなくて叱咤、叱咤の連続だったという感じを私自身は受けました。今日、他の皆さん方はどう受けとめられたかわかりませんが、いずれにしましても、私たちは謙虚に今日の皆さん方の御意見、そして、今日の提言案に書かれていることを受けとめまして、これから福島をどういう形に持っていったらいいのか、そして、福島のまちづくり、それから、その前提となる原発のいろんな問題に対してどう対処していったらいいのか、こういったことを真剣に取り組んでいきたいということで考えております。

細かい、どういう意見が出たかどうかということは、事務局のほうからまた説明があるようでございますので、事務局のほうに聞いていただければと思います。

私のほうからは以上です。

2. 質疑応答

(問) 大臣、厳しい御指摘をいただいた、叱咤をいただいたという表現をされていましたが、まさにこれを絵に描いた餅にしないために、大臣として今後、どのように取り組んでいかれるか、お考えをお聞かせください。

(答) まず、大西座長さんを始め、このような貴重な、大変に意味のある提言を出していただいた委員の皆様方には心から御礼を申し上げたいと思います。

私たちは、本提言も踏まえまして作成されます福島復興再生基本方針に基づきまして、第2期復興・創生期間後においても引き続き国が前面に立って福島の復興・再生に取り組んでいきたいと考えております。

(問) 大臣、この提言がよくできているという表現をされていましたが、具体的にどういうところがよくできているというふうに感じたのでしょうか。

(答) これは、今日おいでの皆さん方全員が一致して賛成したわけでごさいまして、それで、これはもう、皆さん方のお言葉を借りますと大変よくできているということを多くの今日参加された方々が言われたわけです。それで、首長さん、副首長さん、12人御出席いただきましたけど、この12人の皆さん方も全員がこれについて評価しておられたわけでごさいまして。私たちは県民の皆さんの気持ちに寄り添うという立場をとっていますので、私自身はもともと福島出身ですけど、そうでないとしても、これはやっぱり県民の皆さんのお気持ちの表れだと思えます。

これ、大西座長さんを始め、委員の皆さん方、今日の皆さん方のお気持ちであると同時に、県民の皆さんのお気持ちが集約されているのが今日のこの提言だと思いますので、これを私たちはしっかりと謙虚に受けとめて、そして実現に向けて全力で取り組んでいく必要があるのではないかなと思っております。

(問) 大臣に伺いますけれども、これを見ていると、かなり壮大なというか、夢物語にならないようにというふうに先ほどおっしゃいましたけれども、かなり現実味に欠けるといえるか、妄想になってしまうかという心配があるんですけども、今の、大臣だけではなくて、政府全体でこれをどう裏づけていくのかというのが見えないと、これに何の意味があるのだろうかというふうに思ってしまうんですけども、政府全体としてどのようにこれを裏づけていくお考えなんでしょうか。

(答) これからいろいろ、まだ、今日、この提言が出たばかりでごさいまして、これをもう1回、2回、3回と熟読玩味させていただきましますけれども、今申し上げましたように、この提言は大西座長さんの御意見ということではなくて、まさに委員の皆さん方、そ

して福島県民の皆さん方のお気持ちが全部集約されている提言だ
と思いますので、確かにこれはすぐに実現は難しいなと思うところ
もいろいろあります。ですけれども、そういったことも含めて、
一歩でも二歩でも、そして、必ずいずれはそういった目的に近づ
けるようにしっかりと取り組んでいくことが我々政治家の務めで
はないかと思っております。そして、政府として、とりわけこれ
にはしっかりと取り組んでいかなければいけないと思っております。

(以 上)